

第4節 計画改定の趣旨

福岡市では、2016（平成28）年12月に、第四次となる「福岡市地球温暖化対策実行計画」を策定し、これまで「低炭素のまちづくり」に向けて取り組んできましたが、こうした近年の猛暑や豪雨などの気象災害の激甚化、パリ協定を契機とした国内外の潮流を踏まえ、脱炭素社会実現に向けた取組みを積極的に推進するため、2014（平成26）年6月に策定された「福岡市環境・エネルギー戦略」を統合した上で、「福岡市地球温暖化対策実行計画」の改定を行うこととしました。

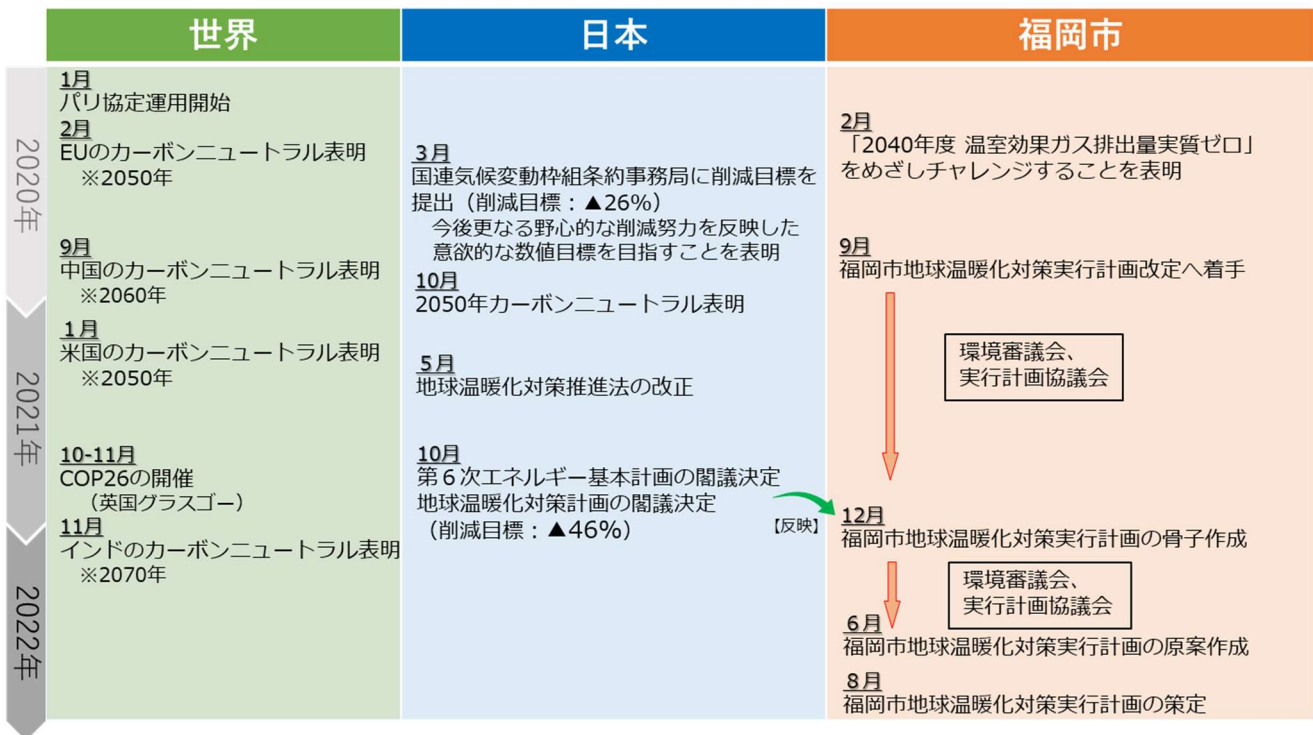


図13 計画改定の経過

省略

(1) 住宅における太陽光発電設備の設置状況

主に家庭用で導入される発電容量が 10kW 未満の太陽光発電設備は、毎年度、新規設置が一定程度進んでいます。マンション等の共同住宅では微増程度であるものの、戸建て住宅における設置件数は過去 10 年間で約 4 倍となっています。

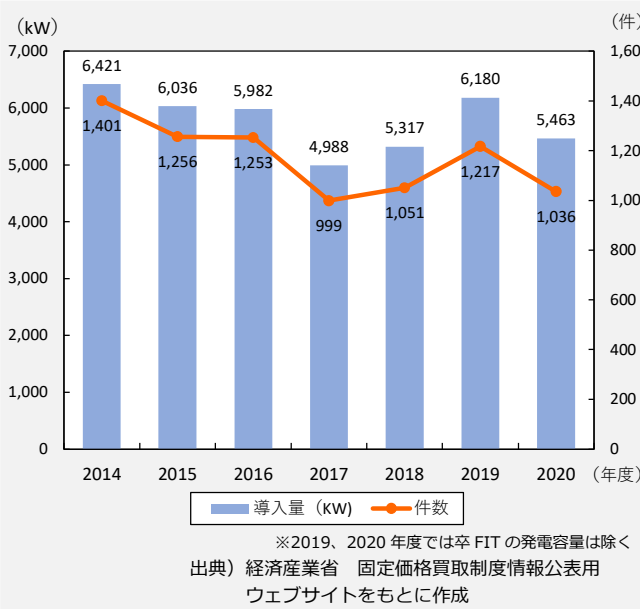


図 26 福岡市域における 10kW 未満年間導入量・件数 (新規)

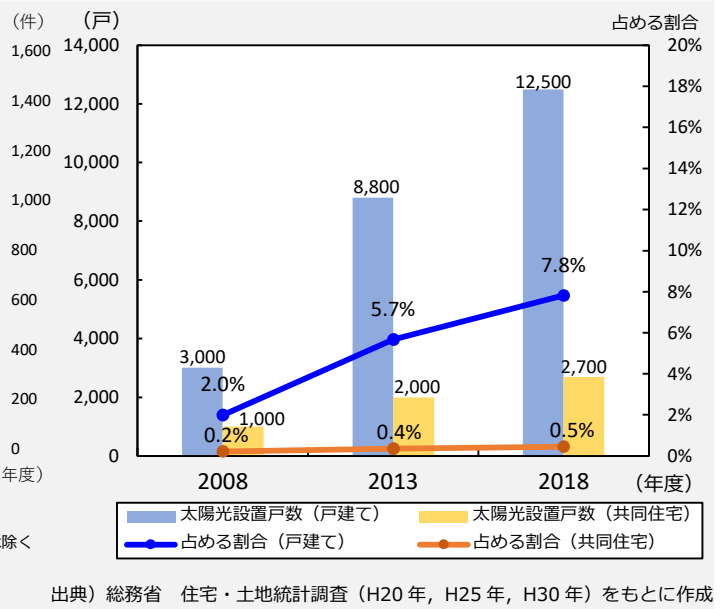


図 27 福岡市域における太陽光発電の設置されている住宅戸数

(2) 大規模な太陽光発電設備の設置状況

主に売電が主目的となる発電容量が 10kW 以上の太陽光発電設備の導入は、大幅な減少が続いています。その要因としては、売電価格の低下や出力制御による事業性の低下、新規立地に適した土地の減少が考えられます。

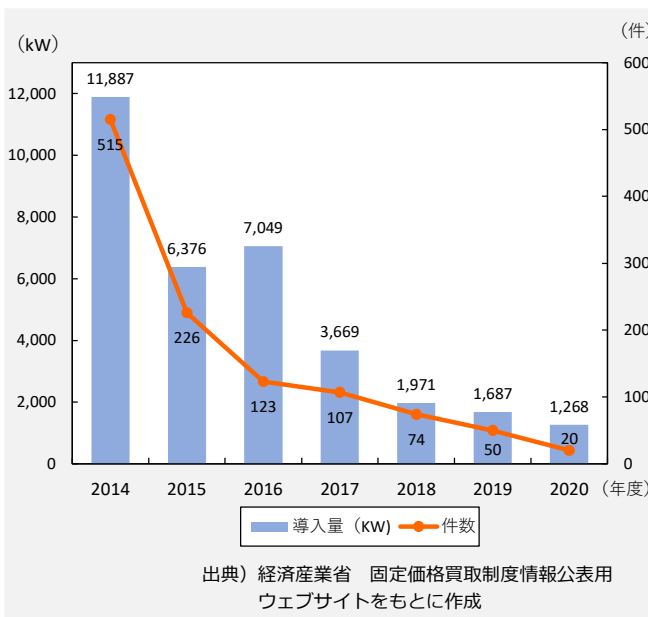


図 28 福岡市域における 10kW 以上年間導入量・件数 (新規)

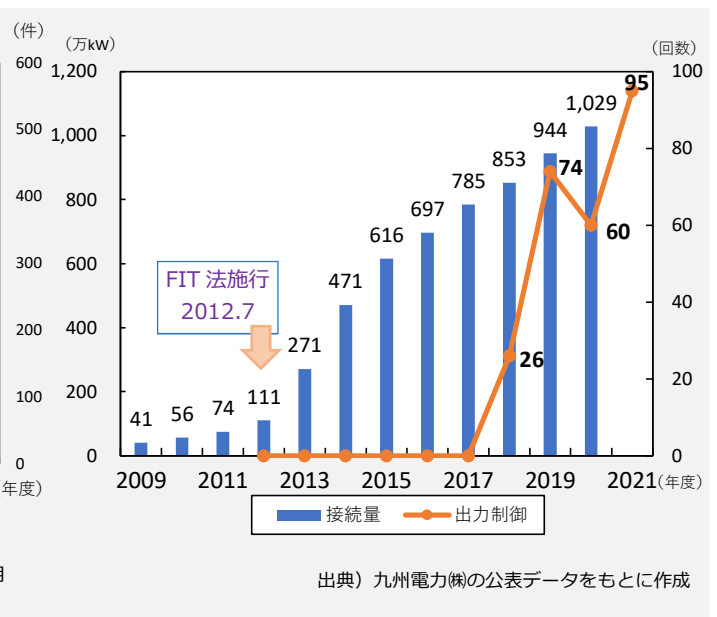


図 29 九州内における出力制御の推移・見通し

省略

第3章 都市の将来像

福岡市のめざす姿

カーボンニュートラルを実装した都市をめざして

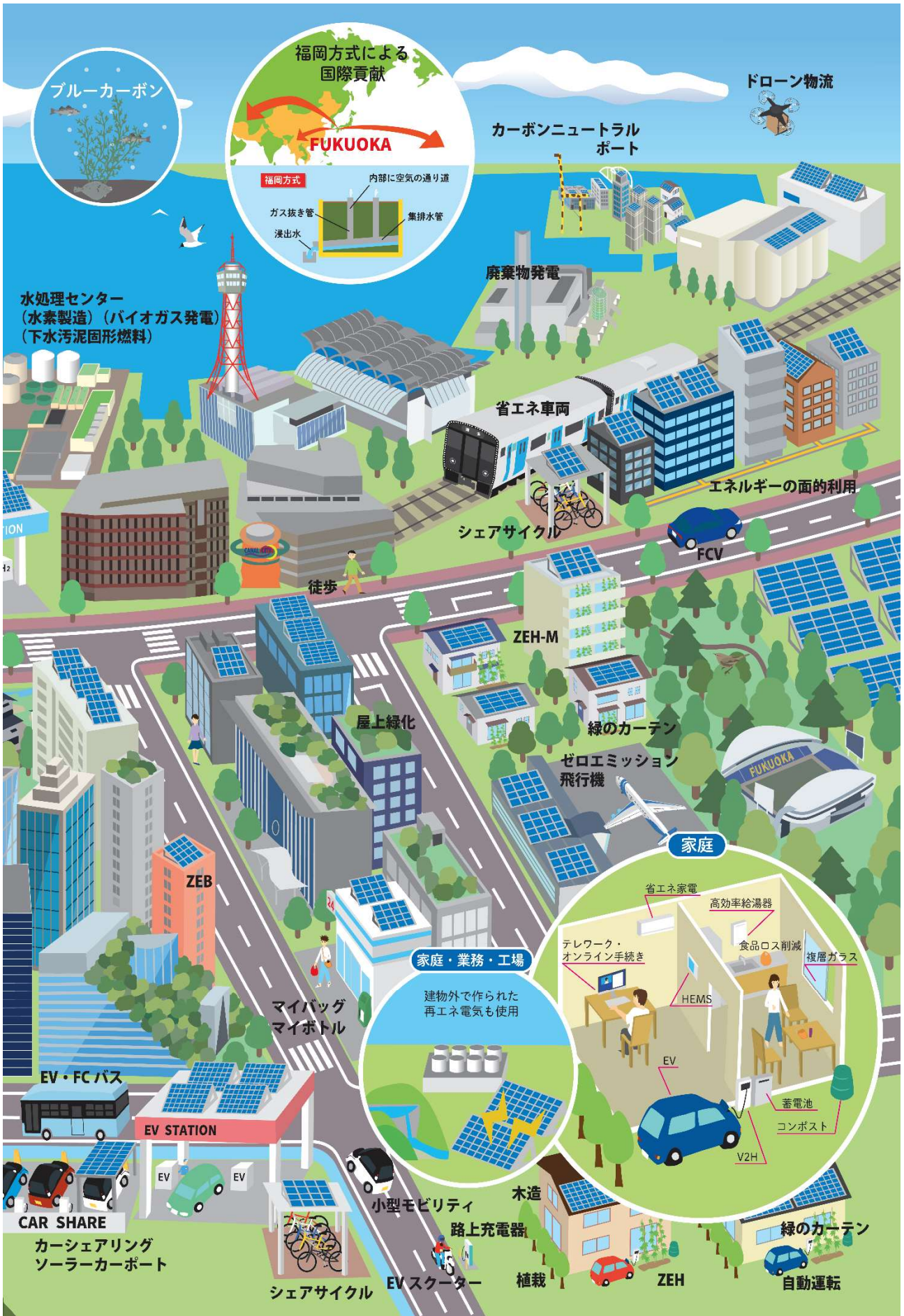
★脱炭素に向けた価値を世界と共有し、都市（まち）が一体となって積極的なチャレンジを行っている。

△★生活やビジネスなど都市活動全般にわたり脱炭素に対応した環境が整備され、温室効果ガスを増やすことがない。

★商品やサービスを購入するとき、みんながその製造、流通、破棄など全ての過程での環境への影響を考慮して選んでいる。

ゼロエミッション船





【チャレンジ目標】

2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ

「市域での温室効果ガス排出量」を「市外への貢献による削減量」と「吸収量」を合わせた量が上回っている状態をいいます。

$$\text{市域の排出量} \leq \text{市外への削減貢献量、吸収量}$$

市域での排出削減を進めるとともに、市外への貢献による削減の拡大、森林などによる吸収を組み合わせることで実質的な排出量ゼロをめざします。

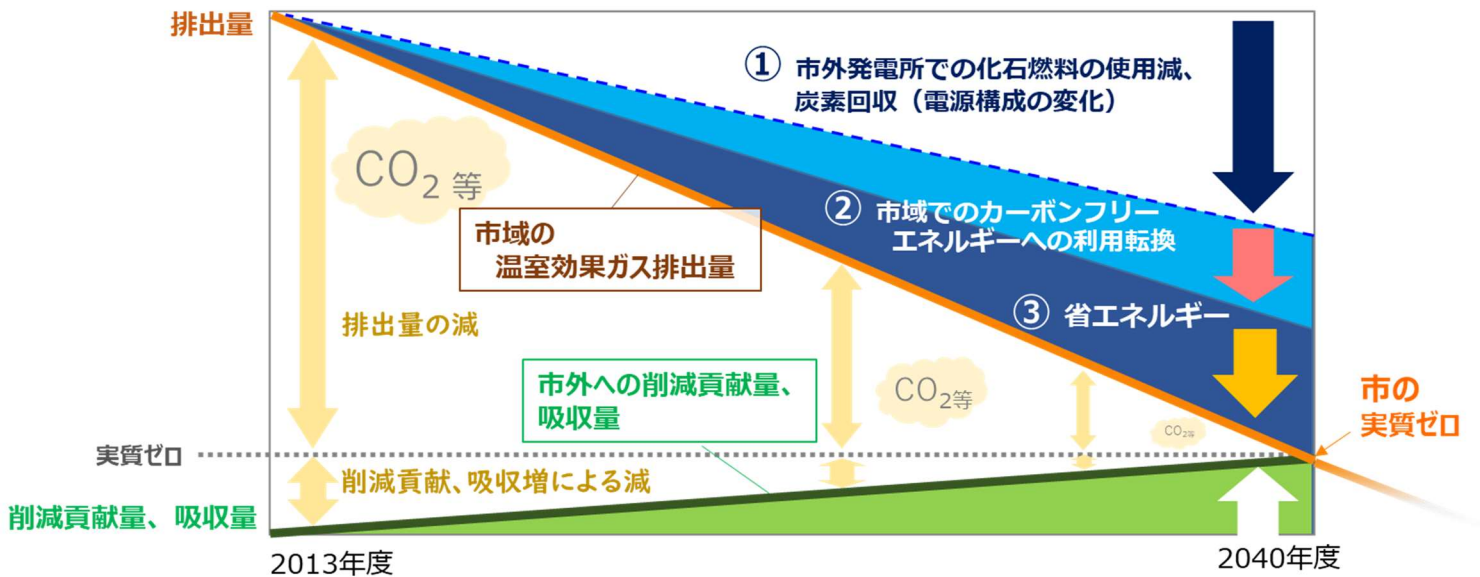


図 31 目標達成に向けたイメージ図

市域の温室効果ガス排出量の削減方策

- ① 市外発電所での化石燃料の使用減、炭素回収による電源構成の変化
- ② 市域でのカーボンフリーエネルギーへの利用転換
 (市域での再生可能エネルギー由来電力の積極的な使用や電化、水素利用など)
- ③ 省エネルギーの推進
 (エネルギーの効率化や無駄なエネルギー消費の削減)

市外への温室効果ガス削減貢献量の拡大と吸収量確保の方策

都市としての特性、これまで培った環境技術、都市間連携を踏まえた取組みの推進。

- i) 市民・事業者による環境にやさしい消費（エシカル消費）
- ii) 国際貢献
- iii) 再生可能エネルギーの市外への売電
- iv) 森づくりなどによる吸収 など